

平成 29 年度 第 1 回中東遠地域医療構想調整会議 結果概要

開催日 平成 29 年 5 月 24 日

1 各委員からの意見

- 磐田市立総合病院と中東遠総合医療センターの 2 病院で圏域内の高度急性期・急性期をある程度完結できるよう担っていくことが望ましい。
- 圏域内の病院の機能分化が進んできており、病院同士が連携していることを住民に伝えることで、患者に退院後の受入先について安心感を与えられる。
- 他圏域に流出すると、病院同士のつながりが密ではないので、その患者の退院先がわからなくなる恐れがある。
- 回復期病床の充実のための基金活用に当たり、病院単体の要望ではなく、当地域の議論の総意として整備計画を提案すべき。
- 在宅医療を考える上で、認知症への対応は避けて通れない課題である。
- 行政が在宅医療を推進する流れと裏腹に、自宅での療養（看取り）を希望する者は減っているという実感がある。
- 在宅診療で持ちこたえている誤嚥性肺炎や慢性心不全など繰り返し発症する高齢患者が、悪化すると急性期病院に依存せざるをえなくなる現状があり、医療資源やマンパワーを活用する上で現状でよいのか対応を検討すべき。
- 終末期の受療行動のあり方については、在宅医療はどういうものか、受療する覚悟があるかを住民に十分周知していくことが必要である。